

1 PLAN(目的・概要)

その他経常業務

政策名	物流・産業	25年度事業・施策評価結果			責任者	港営部 港営課長
施策名	国際・国内海上輸送機能の強化	成果	コスト			
事務事業名	港湾福利厚生施設の維持管理	継続	維持	維持	連絡先 連携課	052-654-7871
目的	対象(誰・何を)	港湾労働者			事業 期間	昭和43年度～継続
	意図(どうい う状態にしたいか)	快適な労働環境の形成を図る。				
概要	港湾福利厚生施設となる港湾労働者福祉センター、岸壁休憩所は本組合が所有していますが、(公財)名古屋港湾福利厚生協会が運営しています。運営方法、施設の修繕、必要棟数等については、同協会及び関係者と調整し、快適な港湾労働環境の形成を図ります。				根拠 法令等	港湾法、港湾労働法
活動内容	引き続き、施設の修繕などを行い、快適な港湾労働環境の形成を図ります。				実施義務	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
					関連 シート	

2 DO(実施)

コスト	単位	24年度	25年度	26年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	93	0	148	80	
人件費	千円	2,615	2,628	2,643	2,629	
合計	千円	2,708	2,628	2,791	2,709	

3 CHECK(検証)

指標名		24年度	25年度	26年度	中間目標 30	指標の説明・目標値の考え方	外部要因
港湾福利厚生施設数(棟) (単年度管理型)	目標	-	-	17	17	目標17棟＝現状16棟＋金城ふ頭岸壁休憩所1棟＋鍋田ふ頭福祉センター1棟－木材港福祉センター1棟	
	実績	16	16	16			
事業進捗状況(平成26年度)				目標値を上回る 目標値をやや下回る	目標値どおり 目標値を下回る		
港湾福利厚生施設の利用者数(万人) (単年度管理型)	目標	-	-	110	110	港湾福利厚生施設の利用者数の推移を把握することで、必要な棟数や配置を検証します。	
	実績	92	90	89			
事業進捗状況(平成26年度)				目標値を上回る 目標値をやや下回る	目標値どおり 目標値を下回る		
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	目標施設数17については、金城ふ頭岸壁休憩所の稼働により達成できる見込みです。利用者数については、平成29年度(予定)に木材港の福祉センターが閉鎖となり、港湾労働者数がより多いと考えられる鍋田ふ頭で新たに稼働することから、利用者数が増加が期待されます。						
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明					
必要性 本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か? 事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	○	港湾法で定められた港湾管理者の業務であり、また、岸壁休憩所設置等の要望もあり、利用者ニーズが高い事業です。					
	○						
有効性 事務事業は、施策達成に貢献するか? 期待どおりの成果が得られているか?	○	快適な港湾労働環境を提供し、海上輸送機能に従事する港湾労働者を支えることで、施策達成に貢献しています。					
	○						
効率性 最小のコストとなっているか?	○	施設の老朽化に伴い、修繕費等のコストがかかっていますが、港湾労働者の福利厚生事業を推進する(公財)名古屋港湾福利厚生協会が管理運営することで、効率的な運用を図っています。					

4 ACTION(取組)

課題	27年度以降の取組
完成自動車の船積みに伴い、金城ふ頭の労働者数が増加しているため、金城ふ頭77号岸壁休憩所の建設を着実に進めていくことが必要です。	金城ふ頭77号岸壁休憩所の建設が着実に進むよう、取り組んでいきます。 引き続き、(公財)名古屋港湾福利厚生協会と調整しながら、利用者のニーズに応じた施設の運営、定期的な施設の保守・点検、修繕などを行い、効率的な施設の運営に努めていきます。